

大西脳神経外科病院

大西 英之 院長



兵庫県明石市大久保江井
島1661-1
TEL：078-938-1238
最寄り駅/JR神戸線大
久保駅下車、送迎バス5分

大西英之院長

Staff

神本勝司副院長・久我純弘副院長 ほか計10人

外来診療日

月曜（8:30～11:30、13:30～16:30）
予約・紹介状が必要

Profile

おおにし・ひでゆき。1946年兵庫県生まれ。71年奈良県立医科大学卒業後、北野病院脳神経外科医員、大塚製薬病院脳神経外科部長を経て、2000年に開業。日本脳神経外科学会評議員、日本脳卒中学会評議員、日本脳腫瘍の外科学会評議員、日本脳脊髄外科学会理事などを務める。

実績・成績

年間

(2006年) 手術症例806例
(院)、76例(大西院長)。
(2007年) 手術症例640例
(院)、60例(大西院長)。
(2008年) 手術症例626例
(院)、71例(大西院長)。



治療

直達手術で脳神経外科全般に定評

大西院長は、菊池晴彦医師(前国立循環器病センター総長、現神戸市立医療センター中央市民病院院長)がスイスからマイクロサージャリーの技術を持ち帰り、日本で開始した直後から師事し、以来、数多くの直達手術を手がけている。対象とする疾患は、脳腫瘍、未破裂動脈瘤、破裂動脈瘤(くも膜下出血)など脳神経外科全般。いずれの手術にも定評がある。

同院長の2006年の手術症例は76例。内訳は、脳腫瘍の摘出術30例、未破裂動脈瘤のクリッピング術25例、破裂動脈瘤のクリッピング術5例、頸動脈内膜剥離術4例、脊髄腫瘍2例、脳動脈瘤奇形1例、浅側頭動脈-中大動脈バイパス術1例、浅側頭動脈-後大動脈バイパス術1例、そのほか7例である。そのうち、合併症が生じたのは1例のみ(巨大動脈瘤)、死亡率はゼロである。

手術の際、「患者にとって何が最善か」ということを第一に考えるのが、同院長の方針だ。例えば、若い患者には、今後の長い人生を考えて根治術を行うが、高齢の患者には、リスクの低い準根治術を行う。また、安全・確実な手術を行うために、手術計画を十分に立て、手術前にイメージリハーサルをする。うまくいかない場面も想定し、その対処法を術前より幾通りも考えておくこと

で手術成績を上げることに成功している。

同院は、24時間365日専門医を配置し、脳卒中中の治療に力を入れている。脳卒中の患者を救うには、一刻も早く専門病院に搬送することが何よりも重要である。脳梗塞の場合は、発症から3時間以内(検査などがあるため実質2時間以内)に到着すれば、治療効果の高い血栓溶解薬・アルテプラゼ(t-PA)を使用できる。ところが、脳卒中か否かの判断が救急隊員には難しく、搬送先を誤って手遅れになることも多い。

そこで同院は、救急隊員でも脳卒中か否かを容易に判断できる「プレホスピタルレコード」を作成。救急隊員は同レコードの記載に従って、患者の意識レベルや片麻痺、言語障害の有無などを評価し、脳卒中の疑いがあれば同院に搬送する。こういった救急隊との連携により、t-PAを使用できる患者が増え、脳卒中中の治療にも実績を上げている。

「医師を選ぶとき、症例数が多いのも一つの条件になりますが、誠実に対応してくれるかどうか大切です。また、相性もあると思います。今はいろいろな医師の意見を聞くことができます。納得のいくまで話を聞いて治療を受けてください」(同院長)。